

様式第3号(第12条関係)

開 催 記 録

名 称	令和4年度第2回吉川市下水道事業審議会
開 催 日 時	令和5年2月2日(水) 午後 2時00分から 午後 3時15分まで
開 催 場 所	吉川市市民交流センターおあしす ミーティングルーム4
出席委員氏名	菊池委員、小山委員、遠藤委員、飯塚委員、戸張委員、阿部委員 山本委員、森田委員、大矢委員
欠席委員氏名	無
担当課職員職氏名	河川下水道課 課長 多田 文武、課長補佐 曾我 幸央 係長 倉田 孝之
会議次第と会議の公開又は非公開の別	次第：別添参照 公開
傍聴者の数	無
非公開の理由	
資料の名称	別添参照
開催記録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	小山修平委員、遠藤義法委員
その他の必要事項	
内 容	<p>■開会</p> <p>■自己紹介及び職員紹介</p> <p>■吉川市下水道事業経営戦略について 事務局より経営戦略の概要について説明。</p> <p>■議事</p> <p>○会長及び副会長の選出 ・下記のとおり会長・副会長を互選により決定 会 長：菊池委員 副会長：小山委員</p> <p>○令和5年度吉川市下水道事業予算について 事務局より「令和5年度吉川市下水道事業予算」について説明。</p>

【質疑応答】

小山委員 吉川美南駅東口土地区画整理事業地内の下水道管布設工事が令和5年～6年度にピークを迎えるとの説明だが、6年度についても5年度と同様の予算額となるのか。

事務局 吉川美南駅東口土地区画整理事業地内においては、雨水管布設工事に約3億5400万円、汚水管布設工事に約3億9200万円を予算計上している。雨水管布設工事については、令和6年度から減少する、汚水管布設工事については、令和6年度も同程度の工事量となる見込み。

大矢委員 マンホールや下水道管の耐震工事については、予算計上されているのか。

事務局 今年度は耐震化工事の予算計上はしていない。  
現在のところ、東口の区画整理事業地内の早期使用収益を開始することに集中している。耐震化工事については東口の区画整理事業地内の下水道管布設工事が終了次第、耐震化工事計画を策定し、耐震化工事を進めていく予定。

大矢委員 管渠の老朽化調査などはしていないのか。

事務局 下水道管について耐用年数を経過しているものがないため、老朽化の調査についてももう少し先になると考えている。

遠藤委員 東口土地区画整理事業地内の収益が開始されるのはいつ頃からなのか、また国庫補助率はどのくらいなのか。

事務局 税金が入ってくるのは、早い所で来年度からと聞いている。

国庫補助率については、基本的には50%となっている。しかしながら、ポンプ場関連経費などについては、近年、採択率が下がっている。

菊池会長 有収率はどの程度か。

事務局 令和3年度決算で有収率は、90.7%となっている。今後も90%前後で推移するものと考えている。

菊池会長 有収率90%という数字は全国平均より高いものであると思う、また、減価償却率も低いので、この点か

らも資産は老朽化が進んでいないものとする。

当面は土地区画整理事業に力を注ぎ、稼げる基盤を作るという戦略は当然のものとする。

今後は、アセットマネジメントを行いながら、老朽化対策にシフトしていくということになると思われる。

しかしながら、区画整理事業に投資しても思うような収益が上がらないというケースが出てきていることもある。現在の住宅は究極の節水型であり、一人当たりの水道使用量が減っている。また、区画整理事業地内に来る住民も同一市内からの移動が多いことも考えられる。すると、下水道使用料が思ったほど見込めない恐れがある。東京都では人口が増えても下水道への排水量は減っている。吉川市で接続世帯が増えて、排水量も増えているのは全国的に見ても珍しいケースではあるが、このことが続いていくことは考えられない。いつか下水道使用量は減少に転じると予測される。将来的には、下水道使用料が減少し、管渠の老朽化の対策費は増加していくと資金不足に陥ることが予測される。

また、予算書におけるキャッシュフロー計算書を見ると現金は増加しているが、借金により現金が増えているという構図になっている。現金残高に対して借入金残高が10倍程度となっており、現金が不足している状況を認識する必要がある。借入金を返済していくためにも現金保有率を上げることは重要であり、そのためには、料金水準をどの程度にするのか検討することが必要であるとする。

遠藤委員 土地区画整理事業地内の下水道管整備については、一気にやる必要があるのか。

事務局 現在のところ、一気にやる予定である。

菊池会長 下水道管を布設し、その後、住宅が張り付いたことで事業費を回収するというのが基本スキームであるので、先行投資は致し方無い。より住宅が張り付く施策を講じる必要がある。

遠藤委員 吉川駅北側の地域が大雨降ると冠水する。解析調査

	<p>において共保ポンプ場の増強をしていくということになっているが、その辺の協議はどうなっているのか。</p> <p>事務局 国土交通省に対して、共保ポンプ場の排出量を既存の4.40 m<sup>3</sup>/秒から5.86 m<sup>3</sup>/秒に増強すれば、5年確立の大雨による冠水は解消できるという解析結果を報告し、排出量の増加要望をしたところ。それに対する返事はまだなく、国土交通省にポンプの増強が了承された後に、計画や予算に反映される。</p> <p>遠藤委員 対策費用については、下水道会計で負担するのか。</p> <p>菊池会長 雨水対策経費については、広く市民に係ることなので、下水道事業会計で支出するが、実際の費用負担は一般会計となる。</p> <p>戸張委員 電力がまた値上がりすると思うが、予算は十分に確保されているのか。</p> <p>事務局 雨水ポンプにおける電力費用は、一般会計からの負担金で賄われている。汚水のポンプに係る経費は下水道使用料で賄っている。雨水ポンプに比べて汚水ポンプに係る電力費用は小さく、令和5年度の当初予算で値上がりを見込んで約120万円予算計上している。</p> <p>■その他</p> <p>今後のスケジュールを事務局より説明。</p> <p>○「令和5年度吉川市下水道事業予算」について</p> <p>令和5年3月議会において審議後、予算承認を受ける。令和5年2月19日執行の吉川市長選挙の結果によっては内容が変更となる可能性があることを説明。</p> <p>○「令和5年度第1回吉川市下水道事業審議会」について</p> <p>経営戦略の進捗状況及び令和4年度決算を議案として、令和5年7月下旬ごろ開催予定</p>
--	--

署名委員

氏名

氏名

---



---